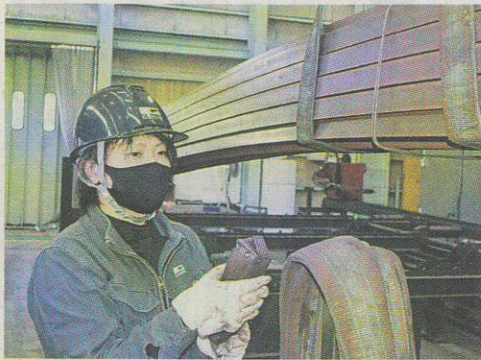


おの・とうま
小野 闘馬さん
ゴーリキ

工場・倉庫で材料や製品を保管する棚(ラック)を製造する老舗企業、ゴーリキ(本社伊勢市大湊町1-1-25の10)。強力雄社長が「作業が早く正確。飲み込みも早い」と太鼓判を押すのが、生産部製造課に所属する小野闘馬さん(24)だ。

主力製品であるラックの製造は切断、穴あけ・溶接、塗装などの工程が分かれる。小野さんは、このうち切断を担当している。約4500万円の機械を操作し、高さや奥行きなど、顧客の注文に合わせてスチールをカットするのが役割だ。

正確さはもちろん、スピードが重要な作業となる。小野さんは「モノづくりの最初の工程なので、遅れてしまったら、後ろがつかえてしまう。毎日、



「効率化を意識して業務に取り組んでいる」と語る小野さん

効率化を意識して業務に取り組んでいる」と語る。

小野さんは入社2年目。昨年5月、友人の紹介で入社した。前職では、産業用空調設備の施工を手掛けていた。ただ、急な出勤も多く、休みの予定が立てにくかったことから、有給休暇が取りやすく、ワークライフバランスが充実したゴーリキへの転職を決めた。

入社2年目だが、社長からの期待は大きい。同社には、SDGs(持続可能な開発目標)や改善活動の5S推進に向けた委員会制度がある。小野さんは7月から、その委員会の委員長として社長に指名された。すでに次年度の委員会運営に向けて準備を進めている。小野さんは「社員が自発的、持続的に取り組めるような委員会にしていきたい」と意気込みを語る。

小野さんの直近の目標は主任への昇格だ。任されている切断業務の効率化はもちろん、溶接などの後工程にもチャレンジしている。「後工程の手伝いができれば、全体の業務効率向上にもつながる」と意気込む。

現在0歳と1歳の子どもがいる小野さん。土日は子どもとの世話をしたり、遊んだりするのがリフレッシュにつながっている。また、小野さんは「2人目が生まれたのは会社のおかげだ」と語る。柔軟な休暇制度や会社のアウトホームな雰囲気のおかげで、育児も充実しているようだ。